

(3) 交通手段・道路環境について

暮らしやすいまちの条件のひとつに、外出時の移動しやすさが挙げられます。ただし、移動しやすさは、個人の心身の状態や生活環境によって大きく異なります。そこで、市民のみなさまから、現在のご自身の状態と移動しやすさなどをお聞きし、誰もが移動しやすいまちづくりの基礎的な資料として役立てていきたいと考えています。

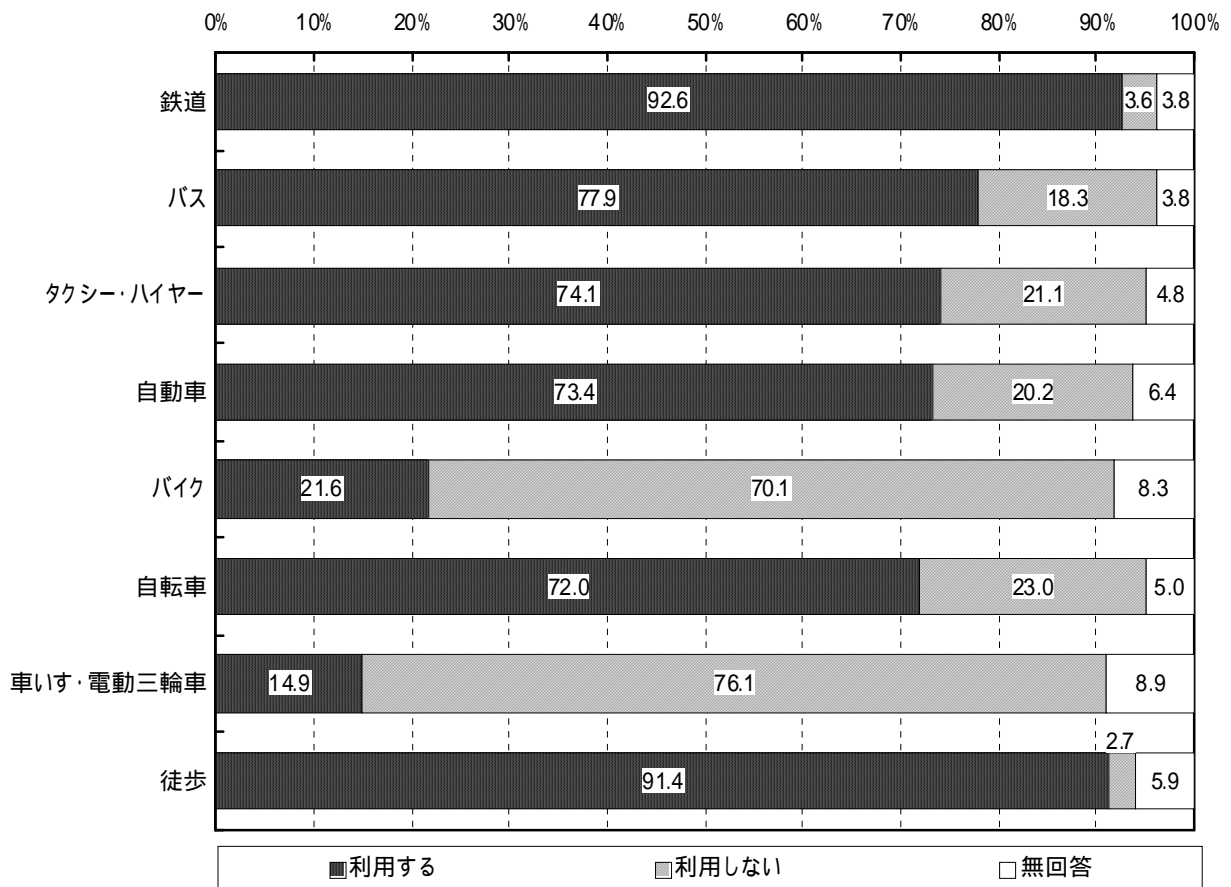
市内の移動手段について感じること

あなたは次の手段で市内を移動する際の環境について、どのように感じていますか。
問18 以下のア．～ク．それぞれについて、1から5のあてはまるもの、または利用しない場合は6に をつけてください。

鉄道や自動車等は使いやすい一方、車いす等は使いにくい。

- ・市内の移動手段について、利用する手段をみると「鉄道」が92.6%、「徒歩」が91.4%、「バス」が77.9%、「タクシー・ハイヤー」が74.1%、「自動車」が73.4%、「自転車」が72.0%などと多くなっている。

市内の移動手段(n=2,094)



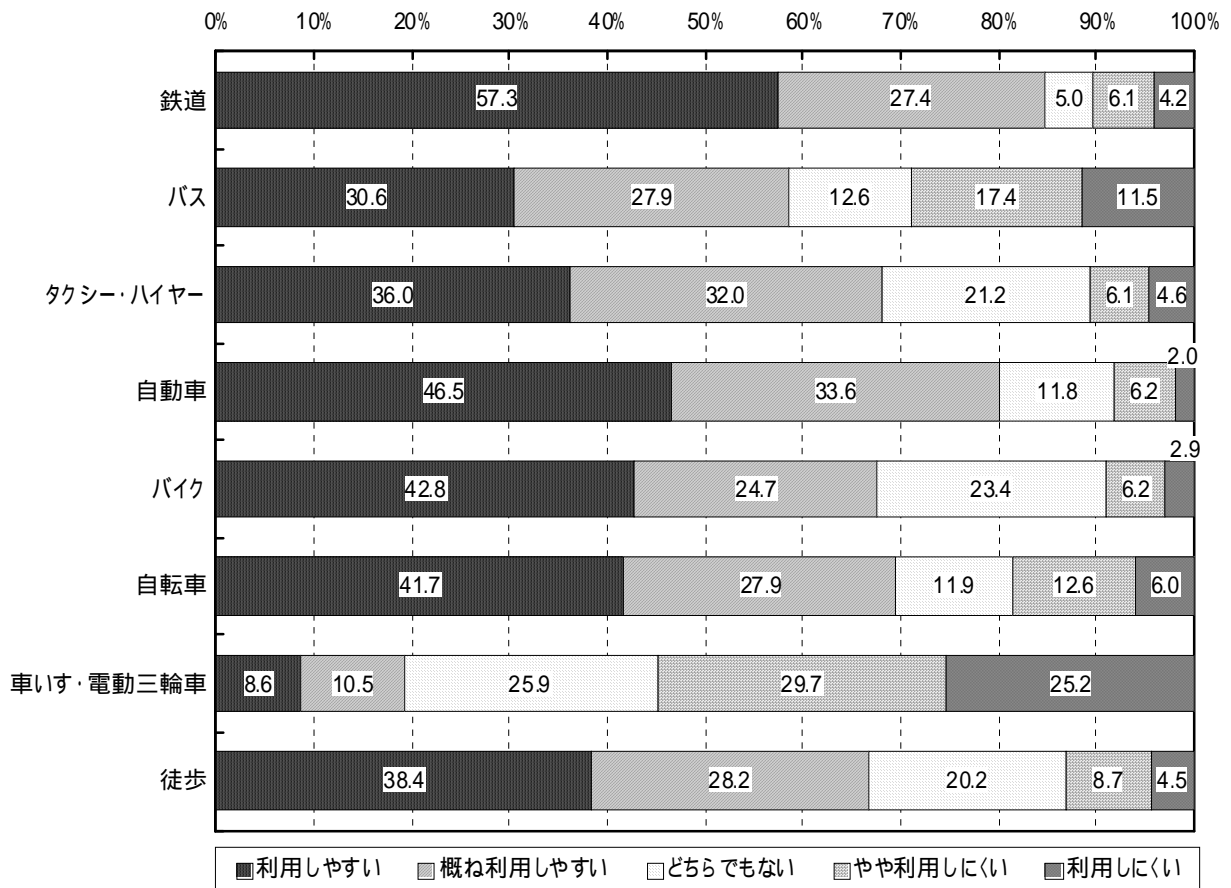
・居住するコミュニティ別に各移動手段の利用率をみると、以下のようになっている。

	鉄道	バス	タクシー ハイヤー	自動車	バイク	自転車	電動三輪車 いすゞ	徒歩
全体 (n=2,094)	92.6%	77.9%	74.0%	73.3%	21.6%	72.0%	15.0%	91.3%
香櫨園 (n=59)	98.3%	67.9%	74.5%	76.3%	13.6%	86.5%	11.9%	98.4%
浜脇 (n=118)	95.7%	79.7%	72.0%	68.6%	14.3%	82.2%	12.5%	89.9%
用海 (n=52)	92.3%	74.9%	84.6%	63.4%	32.7%	82.7%	15.3%	92.3%
津門 (n=59)	98.4%	69.5%	71.1%	67.8%	30.6%	74.6%	11.9%	96.6%
春風 (n=69)	92.8%	76.7%	75.2%	79.7%	30.4%	84.0%	17.3%	92.7%
今津 (n=70)	77.1%	61.4%	68.4%	60.0%	18.6%	81.5%	11.4%	87.2%
夙川 (n=54)	98.2%	72.3%	88.9%	68.6%	11.2%	64.8%	14.8%	96.4%
越木岩 (n=82)	95.1%	74.4%	87.8%	76.7%	21.9%	52.4%	14.6%	91.5%
苦楽園 (n=33)	84.8%	87.9%	87.8%	87.8%	12.1%	27.3%	12.1%	78.7%
安井 (n=56)	96.4%	91.2%	75.0%	80.4%	34.0%	78.6%	17.9%	99.9%
大社 (n=56)	92.9%	80.4%	82.2%	75.0%	16.1%	73.3%	12.5%	92.9%
神原 (n=37)	94.6%	97.3%	78.3%	72.9%	13.5%	54.0%	8.1%	94.5%
甲陽園 (n=81)	91.5%	91.4%	81.4%	81.4%	17.2%	43.2%	8.6%	85.3%
芦原 (n=20)	90.0%	70.0%	70.0%	70.0%	20.0%	80.0%	25.0%	90.0%
平木 (n=31)	96.7%	74.3%	64.5%	71.0%	19.4%	64.6%	16.1%	93.6%
広田 (n=70)	85.7%	74.3%	75.8%	65.8%	25.7%	74.3%	14.4%	91.4%
上ヶ原 (n=88)	90.9%	85.3%	81.7%	69.4%	32.9%	63.5%	13.6%	87.7%
甲東1 (n=70)	98.6%	61.5%	72.9%	74.3%	22.8%	81.4%	15.8%	99.9%
甲東2 (n=109)	91.7%	67.0%	71.6%	79.8%	25.7%	82.6%	14.7%	91.8%
北口 (n=95)	92.8%	62.0%	68.5%	79.9%	20.1%	89.5%	16.9%	92.7%
瓦木 (n=103)	98.1%	82.5%	77.6%	72.8%	13.7%	84.5%	12.6%	96.1%
甲子園口 (n=55)	94.5%	94.5%	85.5%	78.2%	23.6%	89.0%	18.2%	94.5%
鳴尾1 (n=133)	95.5%	73.7%	76.1%	67.8%	21.9%	88.1%	15.8%	94.8%
鳴尾2 (n=184)	89.6%	75.5%	68.0%	69.6%	21.8%	79.8%	17.4%	91.1%
鳴尾3 (n=87)	93.1%	91.9%	73.5%	67.7%	17.1%	74.6%	14.8%	91.9%
名塩 (n=80)	92.7%	92.6%	60.1%	81.4%	20.1%	26.4%	17.6%	86.3%
生瀬 (n=36)	91.7%	80.5%	77.7%	77.8%	36.3%	47.2%	19.4%	77.7%
山口 (n=71)	84.6%	87.3%	42.3%	88.8%	22.6%	36.7%	15.4%	79.0%

斜体の数値は、全体比10ポイント以上の結果を表している。

- ・ 利用者の使用感をみると、「利用しやすい」と「概ね利用しやすい」を合計すると、「鉄道」や「自動車」では80%以上が使いやすと感じている。一方、「車いす・電動三輪車」では54.9%が使いにくいと答える結果となっている。

市内の移動手段について感じる事 《利用者のみ》



鉄道(n=1,938)、バス(n=1,632)、タクシー・ハイヤー(n=1,551)、自動車(n=1,537)、バイク(n=453)、自転車(n=1,508)、車いす・電動三輪車(n=313)、徒歩(n=1,913)

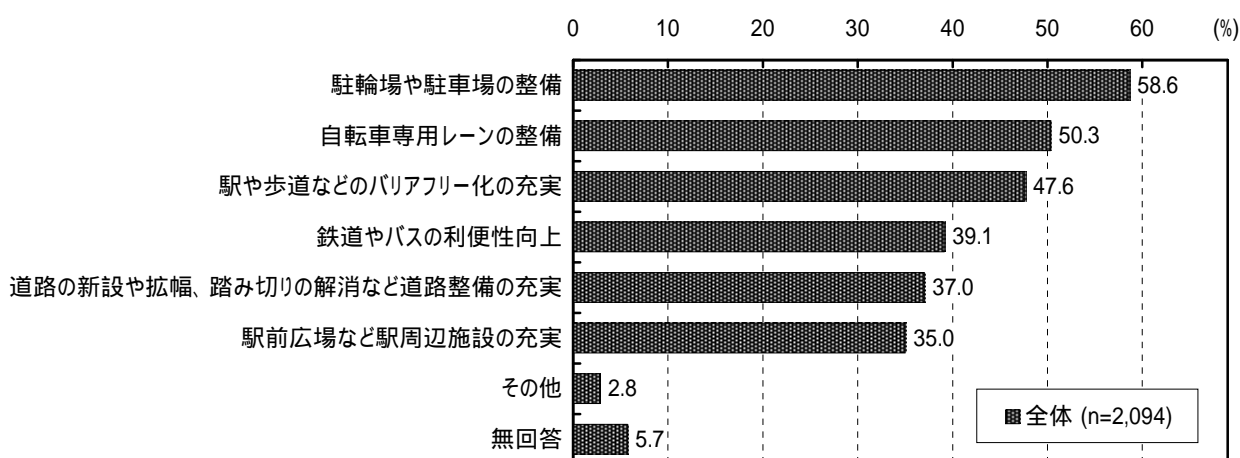
交通利便性を向上させる上で大切な取り組み

今後、西宮の交通利便性を向上させていく上で、あなたはどのような取り組みが大切だと思えますか。特に大切だと思うものから順に3つ選んで、その番号をご記入ください。

駐輪・駐車場や、自転車専用レーンの整備が求められている。

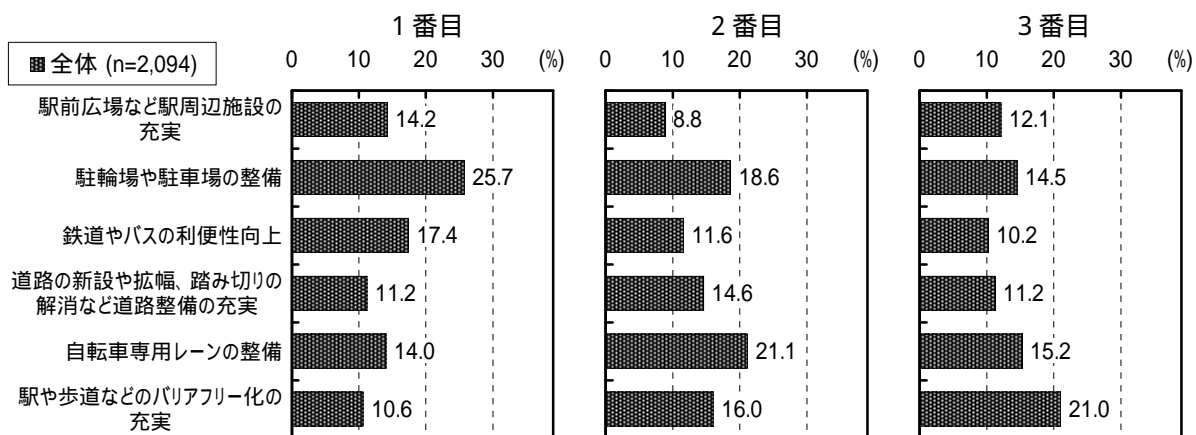
- ・ 交通利便性向上に必要な取り組みとしては、「駐輪場や駐車場の整備」が58.6%と最も多く、次いで「自転車専用レーンの整備」が50.3%、「駅や歩道などのバリアフリー化の充実」が47.6%などと続いている。

交通利便性を向上させる上で大切な取り組み（集約）



- ・ 集約前の回答を1～3番目までそれぞれみると、2番目以降で「自転車専用レーンの整備」や「駅や歩道などのバリアフリー化の充実」などが多くなっていることがうかがえる。

問19 交通利便性を向上させる上で大切な取り組み：1～3番



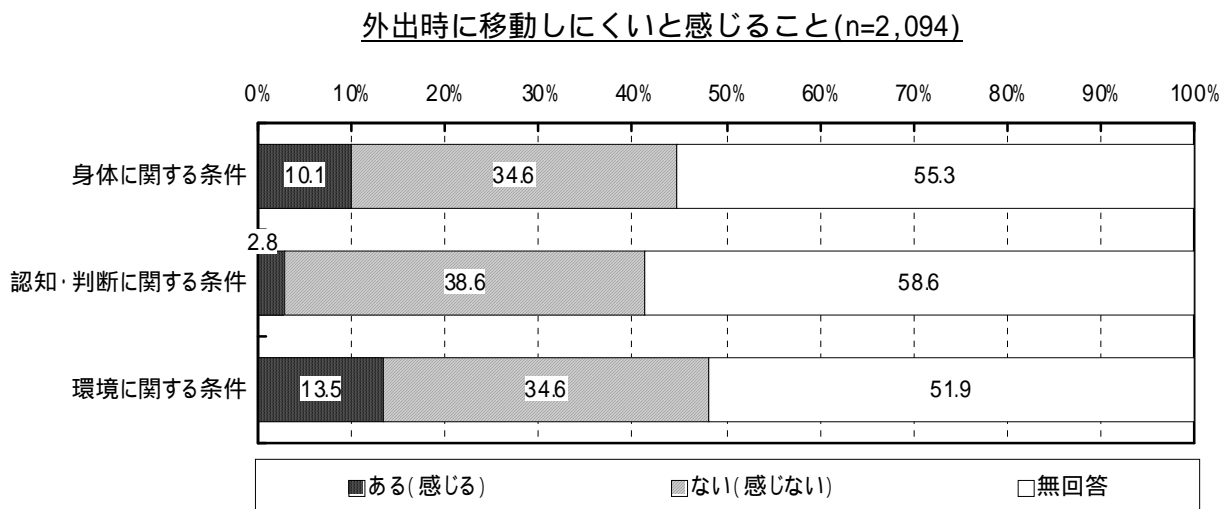
表示の関係上「その他」「無回答」を割愛。

外出時に移動しにくいと感じること

以下にあてはまる人におたずねします。外出時のあなたの状態について、以下のア・問20 ~ウ・それぞれについてあてはまる場合、移動しにくいと感じることはありますか。
(あてはまるものに)

ハードウェア面での外出しづらさを感じている。

- ・外出時に移動しにくく感じるものとしては、「環境に関する条件」が13.5%、「身体に関する条件」が10.1%、「認知・判断に関する条件」が2.8%となっている。



設問時、身体に関する条件とは「手足に不自由がある、妊娠しているなど」、認知・判断に関する条件とは「認知障害がある、見えにくい色があるなど」、環境に関する条件とは「ベビーカーや車いすが必要な家族がいるなど」としている。

施策に向けての一言 < 交通手段・道路環境について >

西宮市民は市内の交通や道路状況についてどのように考えているのだろうか。問 18 は市内を移動する際の交通手段の利用状況と利用感について尋ねている。利用状況としては、鉄道と徒歩が 90%を超えている。バスも 80%近くが利用している。タクシー・ハイヤー、自動車、自転車が 70%台で続いている。他方、バイクは 21.6%と低いのが目につく。

利用しやすさについてはどう考えているのであろうか。「利用しやすい」と「概ね利用しやすい」を合計した肯定的評価が高いのは、鉄道 84.7%、自動車 80.1%、自転車 69.6%、タクシー・ハイヤー 68.0%、バイク 67.5%、徒歩 66.6%の順である。バイクは利用しやすさの肯定的評価では高い方に入っているが、実際の利用度は高くはない。どうしてであろうか。バスの利用度は高いが、利用しやすさの肯定的評価では 58.5%で他に比べてやや低い方になっている。渋滞や運行経路と頻度などに改善の余地があるからであろうか。

車いす・電動三輪車の利用状況は 14.9%で最も低いが、むしろ問題なのは利用しやすさの肯定的評価が 19.1%にすぎず、「利用しにくい」と「やや利用しにくい」の合計が 54.9%に達し、否定的評価が半数を超えていることである。利用状況が多くはなくても切実に必要としていると考えられることから、利用しにくいという評価は問題である。駅の施設や道路状況など改善を検討する必要がある。

問 19 は交通の利便性を向上するうえでの大切な取り組みを尋ねている。「駐輪場や駐車場の整備」が最も多く、58.6%になっている。この設問では、特に大切と思う順の 3 つを選んでもらっているが、「駐輪場や駐車場の整備」が一番目に挙げる割合でも 25.7%でトップになっている。市民の間でこの点の問題意識が強いことを示している。自転車や自動車の利用に際して駐輪場や駐車場の整備は必須となっているからであろう。また、違法駐車や迷惑駐車が渋滞を増大させている実態もうかがわれるように思われる。

続いて、「自転車専用レーンの整備」が 50.3%である。近年、健康や環境保護上の理由から自転車利用が増加しているが、自転車事故件数も増えていることを反映しているようである。三番目が「駅や歩道などのバリアフリー化の充実」で 47.6%である。とくに車いす・電動三輪車を利用する人にとっては切実な問題であろう。

「鉄道やバスの利便性の向上」は 39.1%と四番目になっているが、一番目に取り上げる割合では 17.4%で、「駐輪場や駐車場の整備」に次いでいる。問 18 でバスの利用度は高いものの、利用しやすさの肯定的評価はかならずしも高くない実態がみられたことを反映しているように思われる。

問 20 は外出時に移動しにくさを感じる条件を尋ねている。「環境に関する条件」が 13.5%でトップになっている。「ベビーカーや車いすが必要な家族がいるなど」のことをさしているが、割合としては高くないものの、実数としてはかなりの数になるのではなかろうか。交通や道路の施策を検討するうえでは配慮すべきところであろう。「身体に関する条件」は 10.1%である。これは「手足に不自由がある、妊娠しているなど」をさしているが、同様に割合としては高くないものの、実数としてはかなりにのぼると考えられる。施策の検討において配慮すべきであろう。ただ、この設問の回答で目立つのは「無回答」の割合が半数を超えて高いことである。設問の趣旨や意味がややわかりにくかったのではないかと思われる。

(関西学院大学 森脇俊雅)